

【様式1】

学校名	上野原市立上野原小学校	教科	国語科
研究主題	自ら進んで考え、自他と対話しながら課題を解決しようとする子供の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業づくりを通して～		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える教師の在り方研究
 - ・日常授業における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を支える取組、それを支える教師の役割及び学級経営、環境づくりについて具体例から共有し、日常の授業改善を図る。
- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業デザイン研究
 - ・ブロックごとに研究授業を行い、発達段階に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業デザインについて、授業を通して検証する。
 - ・ICTの効果的な利活用について具体例を共有し、授業に生かす。
- ③教師の新たな学び研究
 - ・ICTの効果的な活用を図り、授業研究会の充実を目指す。

(2) 具体的な研究活動

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える教師の在り方研究
 - ・授業を参観したり、録画した授業動画を見直したりすることで、授業の中での教師の言動について注目し、その言動がどのような意図で行われていたのか、それによってどのような効果が期待できるのか、実際に児童にどのような変化が見られたのかを検証する。
 - ・日常の授業やその他の学校生活全般の中で、教師がどのような存在として児童の教育に関わるべきか、指導の内容や言動等を中心に情報交換をしたり見直したりする。



- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業デザイン研究
 - ・国語科の授業を1年生、3年生、6年生で行い、「自由進度学習」をキーワードとした授業研究づくりを行った。各学年の児童の実態や発達段階に応じた、授業のデザインについて授業の中での児童の姿から検証をした。
 - ・ICTの活用についてもどのような場面で効果的な利活用ができるかについて検討した。



③教師の新たな学び研究

- ・ウェアラブルカメラを使い、教師の視点から授業を見直し、授業における教師のよりよいあり方を模索した。
- ・ICTの効果的な利活用について情報交換をし、授業づくりや教材づくりに生かした。



2. 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える教師の在り方研究

○本校校内研の目指す授業を支える教師のあり方について、研究授業での授業者の言動や働きかけに注目しながら研究会を行った。研究会を重ねる中で、少しずつ具体的な姿や価値を見付けることができるようになった。

●児童の新たな学びの姿を目指す中で、指導者の意識改革が必要であることが、研究会の中で挙げられた。無意識のうちに凝り固まっている指導観を改めて見直し、授業のデザインをしていきたい。

②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業デザイン研究

○「自由進度学習」をキーワードに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業づくりに取り組むことができた。

○国語科の授業実践を3本行い、授業づくりを通して、授業をどのようにデザインしていくのか、具体的に考えることができた。

●児童を主体とした授業展開の中で、「目標」「児童に示すルーブリック」「評価」等については、十分に議論することができていない。育成すべき資質・能力をどのように活動の中で身に付けていくのか研究を進めていきたい。

③教師の新たな学び研究

○授業づくりでの資料共有、児童が学習で使うワークシート等、新しいアプリや今までと違う使い方を試すなど、ICTの効果的な活用について模索することができた。

●ウェアラブルカメラを取り入れることで、新たな気づきが多くあったが、具体的な視点や動画の活用方法は試行錯誤の連続であった。授業研究のあり方についても、引き続き「新たな教師の学び方」を模索していきたい。

研究授業の概要【国語科（書くこと）】

単元名 「自分で調べた食べ物のひみつを文章にして友だちに伝えよう」

～自分の考えと事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しよう～（第3学年）

1 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解すること。
〔知識及び技能〕(2) ア
- (2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B (1) ウ
- (3) 言葉がもつよさを気付くとともに、幅広く読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解している。(2) ア	① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 B (1) ウ	① 学習の見通しをもって、自分の考えを明確にして書こうとしたり、自分の考えとそれを支える事例との関係などについて書き表し方を工夫しようとしていたりしている。

3 単元について

- ・本単元では、「すがたを変える大豆」を読んで説明の仕方の工夫を理解し、それらを活用して、児童自身が友だちに伝えたいと思う食べ物について、説明する文章を書くことで書き表し方を工夫する力の定着を図る。
- ・読み手にとって分かりやすい文章を書くことを主眼とし、教材や作例の文章を手がかりに、説明の仕方の工夫を改めて確認してから書くようにする。今回は、友だちに伝えることを意識して児童が自分で推敲したり、交流したりできるようにする。
- ・一連の活動のなかで、書籍を使って調べたり、集めた情報を整理したりして、読書や情報整理に関わる内容も身に付けるようにする。
＜児童について＞
- ・調べ学習の際、自分で黙々と作業をしたい児童もいれば、友だちと相談して問題を解決する児童もいる。環境を整え、児童が学び方を選択できるようにしたい。
- ・本やインターネットを用いた調べ学習は総合的な学習の時間でも行っているが、集めた情報を整理する力はまだ不十分である。これまで、「すがたをかえる大豆」の学習の中で、表や思考ツールを使って情報を整理する方法があることを学んできている。その経験を生かし、本時では、自分で調べたことをまとめる際に、表か思考ツールを選び、自分にとって整理しやすい方法で、集めた情報を整理することができるようにしたい。
- ・2学期からローマ字を習い始め、キーボード入力への意欲も高まっている。長い文字を打ち込むには時間がかかる児童が多いが、短いキーワードであればほとんどの児童がすぐに入力することがで

きる。音声入力や手書き入力を活用する児童も数名いる。情報を整理する際、希望する児童はパソコン入力も選ぶことができるようにする。

- ・文章を読んで必要な情報を抜き出すことが苦手な児童もいる。目次を見て自分の調べたい情報を探したり、必要な情報だけを取り出してまとめたりできるようにしたい。

4 指導と評価の計画（8時間）

次	時	学習内容	留意点	評価規準	
第一	1	○これから学習する内容に見通しをもち、今後の学習計画を立てる。	前時までの「すがたをかえる大豆」の読み取りで使ってきた掲示物を活用し、関連付けながら今後の学習の見通しがもてるようにする。		主
	2	○食材を決めて調べる。【情報の収集】	調べる材料の例を用意しておき、例にないものを調べる児童には、事例をうまく選べるよう、適切な参考図書を紹介するなど、適宜助言するようにする。	知	主
	3 本 時	○調べた内容を整理する。【内容の検討】	席の配置を工夫し、子どもたちが学び方を選択して調べることができるようにする。	知	
	4	○組み立てと例の書き方を考える。【構成の検討】 みんなで工夫を考え、掲示物に書き込みながら推敲のポイントを確認する。 ・「中」で例を挙げる順番を工夫する。 ・「中」の段落の1文目に段落の中心となる内容があり、「くふう」という言葉を用いている。 ・順序を表す接続語が正しく使われている。 ・「このように」を用いて、文章をまとめている。 ・文末表現を敬体で統一している。	「はじめ」と「終わり」はみんな考え、「中」を友だちと読み合いながら組み立てていくようにする。	知	主
	5	○文章の下書きをする。 【考への形成・記述】 【推敲】 ・漢字や文字が正しく使われているかを確認している。 ・主述の対応や接続詞の使い方などが正しいかを確認している。 ・句読点の使い方や改行は適切かを確認している。 ・「中」の段落の1文目に段落の中心となる内容があり、「くふう」という言葉を用いている。 ・順序を表す接続語が正しく使われている。 ・「このように」を用いて文章をまとめている。 ・文末表現を敬体で統一している。	チェックリストをもとに自分の文章を読み返して確かめることができるようにする。 ワークシートを二種類用意し、自分の使いやすい方のワークシートを選ぶことができるようにする。		思
	6	○清書をする。		知	思
	7	○友だちと文章を読み合い、感想を伝え合う。 【共有】			主
	8	○単元の学習を振り返る。			主

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ 自分の選んだ材料について調べ、調べた内容を整理する。

(2) 校内研に関わって

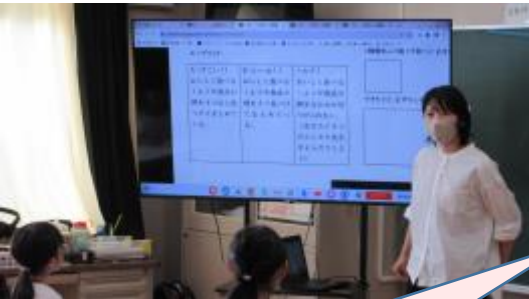


☆「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

- ・ 学習プランを立て、自分の目標に向かって主体的に学習を振り返る時間を設ける。
- ・ 児童が学習方法や使用ツールを選択し、自ら課題解決できるように時間を設ける。
- ・ 一人で学ぶ、友だちと学ぶ、先生に聞きながら学ぶなど、学び方を選択できるようにする。

◇「教師のあり方」について

- ・ 調べることをまとめる方法を子どもが選択できるようにする。
- ・ 授業の初めにルーブリックを示し、児童が目標をもって取り組むことができるようにするとともに、児童の進度や取組状況を見ながら声かけをする。
- ・ 同じ食材を調べる児童同士が近くの席にくるように座席を工夫することで、子どもたち同士が相談しやすい環境設定をする。
- ・ 友だちと先生の会話から自分の考えを広げたり深めたり、ヒントにしたりしながら学習を進めることができる状況を大切にする。

(3) 本時の展開

展開	学習活動	指導上の留意点
<p>つかむ</p>	<p>1 前の学習を振り返る。 2 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>調べたことを整理しよう</p> </div> <p>3 学習のルールや場の設定を示す。 4 マイプラン学習シートに本時の学習プランを記入する。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>児童が学習を進める上で、道に迷わないようにルーブリックを設定。児童の実態をみて、学習シートは紙ベースにした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の調べる材料を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「つかむ」場面で、言葉の見方・考え方を働かせるような時間が大切になる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを示し、示された目標を目指して取り組めるようにする。 

し
ら
べ
る
ま
と
め
る

5 課題を解決する。

自分で選んだ食材の作り方を調べ、食べるための工夫とそれによってできる食品について、整理する。



学び方は、一人・二人・グループと、自分の学び方に合わせて選択。友達から学び方を学ぶことができる。

【調べる相手など】

- ・一人で取り組む
- ・友だちと学び合う
- ・先生から学ぶ



自分の調べたい内容にあった資料、国語辞典などを自由に選択できるように用意。本もPCも友達も先生も学びの助けになる環境づくり。

【まとめ方】

- ・ワークシート
- ・端末のアプリ

を選択しながら学習を進める。



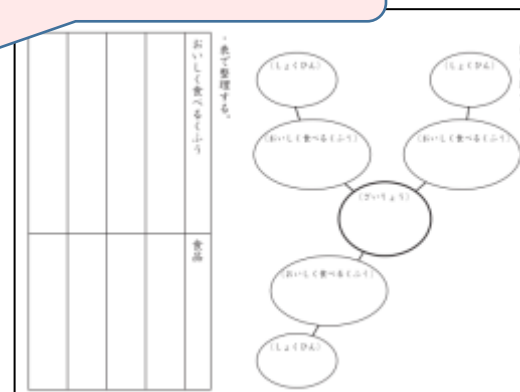
- ・自由進捗で進められるように環境を作っておく。
- ・誰と（一人で、友だちと、先生と）やどうやってまとめるか（図・表）を選択できるようにする。
- ・迷っている児童がいたら、近くの児童を巻き込んで相談したり、全体で共有して意見を聞いたりできるようにする。




先生は個別に指導しながら協働的な学びのきっかけをつくる



まとめ方も紙のワークシート、端末のアプリと児童が自分で選択できる。



<p>ふりかえる</p>	<p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイプラン学習シートで、本日の自分の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを参考に、学習でうまくいったこと、できなかったこと、次はどうすればうまくいくか、家庭学習でしてみたいことなどを記録し、自己調整力が育つようにアドバイスする。
--------------	---	---

めあての設定やふりかえりについては、自分の学習の質、自己調整力が高められるような内容が書けるよう、発達段階に応じて繰り返し指導が必要になる。

(4) 評価

Bと判断する児童の状況	Cと判断する児童への手立て
<p>自分の選んだ材料について調べ、調べた内容を整理することができる。</p>	<p>選んだ材料が載っている資料を確認させ、一つ一つの材料の変化について丁寧に指導する。</p>

※指導に示したルーブリック

〈調べたことを整理しよう！ルーブリック〉

A (すごい!)	B (いいね!)	ヘルプ!
<p>自分が選んだ材料のおいしく食べるくふうや食品の例を見付け、さらに自分の知りたいことを調べて整理している。</p>	<p>自分が選んだ材料のおいしく食べるくふうや食品の例を見付けて整理している。 (3つくらい見付けよう)</p>	<p>おいしく食べるくふうや食品の例をなかなか見付けられない。(友だちにそうだししたり先生をよんだりしよう)</p>

「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

【小学校・第3学年・国語科（書くこと）「食べ物のひみつ教えます」】①
～児童自らが選択しながら学習を進める事例～

1 本事例を取り上げる理由

〈授業展開〉

- ・ 学習プランを立て、自分の目標に向かって主体的に学習をふり返る時間の設定
- ・ 児童が学習方法や使用ツールを選択し、自ら課題解決できるような時間の設定
- ・ 一人で学ぶ、他者と学ぶ、先生に聞きながら学ぶなど、学び方を選択できるようにする

〈指導の工夫〉

- ・ 調べたことをまとめる方法を児童が選択できるような場づくり
- ・ 児童が見通しをもって取り組むことができるような工夫と児童の状況に合わせた声かけ・児童の協働的な学びを助ける座席配置
- ・ 教師の個別指導や評価の言葉から他の児童へ学びを広げる

2 本事例の概要

【本時の流れ】

つかむ

①前時のふりかえり

②課題の確認

『調べたことを整理しよう』

③学習のルール・場の設定

④本時の学習プラン

- ・ マイプラン学習シートを用意し一人一人が本時の学習プランを立てる



写真 1

図 1

マイプラン学習シート		食べ物のひみつを教えます	名前
単元の目次			
日付	めあて	マイプラン	
ループリック			
A (すでにい)	B (いいね！)	ヘルプ!	
おいしい食べ物をよくや食品の例を3つ見つけ、さらに自分の調べたことを調べてまとめたい。	おいしい食べ物をよくや食品の例を3つ見つけ、さらに自分の調べたことを調べてまとめたい。	調べる方法を自分で決めて、調べたことをまとめたい。	
できたこと、おもしろかったこと、つづいてほしいこと			

Point!

- ◎ 課題を確認する場面では、課題解決をする上で必要な言葉に注目できる（言葉の見方・考え方を働かせる）時間を大切にする。
※写真 1

- ◎ マイプラン学習シートに自分のめあてを書く際に、ループリックを提示し、児童が目標をもって取り組むことができるようにする。
※図 1

しらべる・まとめる

⑤課題解決

- ・自分で選んだ食材について調べ、集めた情報を整理する。



写真2

写真3



写真4



Point!

- ◎ 自分の調べたい内容にあった資料、国語辞典などを自由に選択できるように用意し、自分の学習に合わせて選択できる。「本もPCも友達も先生も学びの助けになる環境づくり」
- ※写真2
- ◎ 先生は、個別に指導にあたる。その声掛けが協働的な学びのきっかけをつくることもある。
- ※写真3→写真4

Point!

- ◎ 資料を選択
- ◎ 学び方を選択(一人で・他者と・先生と)
- ◎ まとめ方を選択(紙のワークシート・端末のアプリ)

ふりかえる

⑥学習を振り返る

- ・マイプラン学習シートで本時の学習を振り返る

Point!

- ◎ 自分の学習の質、自己調整力が高められるような内容が書けるよう、発達段階に応じて繰り返し指導が必要になる。

【成果】

- ・学習者主体の授業展開を意識しながらも国語科の学習の要となる「言葉による見方・考え方」を大切にすることができた。
- ・子供たちの学習活動の中に多くの選択場面を設けられた。
- ・学びを支援する教師の適切な介入が見られた。

【課題】

- ・教師の丁寧な個別指導が見られた一方で、児童同士が他者参照する場面が少なかった。そういった場面をどうつくっていくか、教師の関わりについて検討していく。
- ・マイプランを把握する手立て、それを指導に生かす手立てについては今後も検討が必要。